

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

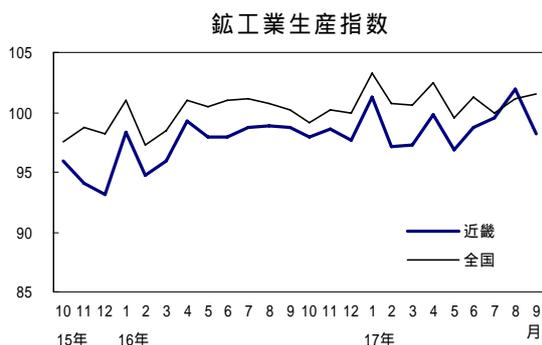
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、ガスタービン、水管ボイラー、掘削機械などにより増加している。化学は、秋冬物の化粧品、ポリプロピレンなどが好調に推移し増加している。電気機械は、携帯電話やパソコン向けのリチウムイオン蓄電池のなどが好調に推移し増加している。食料品・たばこは、発泡酒などが増加したが、ほぼ横ばいで推移している。電子部品・デバイス、テレビやパソコン、携帯電話やゲーム機向けのアクティブ型液晶素子(大型、中・小型)、携帯電話の部品となるチップコンデンサが好調に推移し、3四半期連続で増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	15.0	4.5	2.8	0.4	8.5
化学	12.8	7.6	3.7	0.3	2.6
電気機械	10.1	6.0	2.6	0.2	4.3
食料品・たばこ	8.1	0.7	0.7	0.1	7.2
電子部品・デバイス	7.9	0.6	12.0	13.0	4.8
鉱工業	100.0	0.1	1.4	0.5	1.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

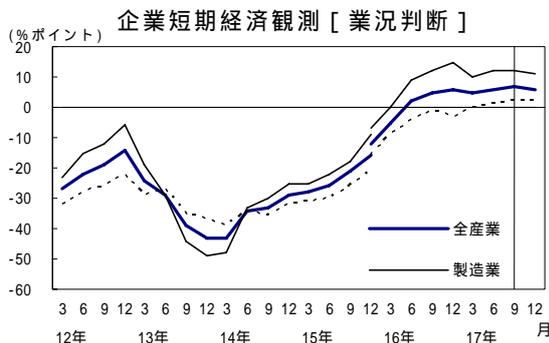
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

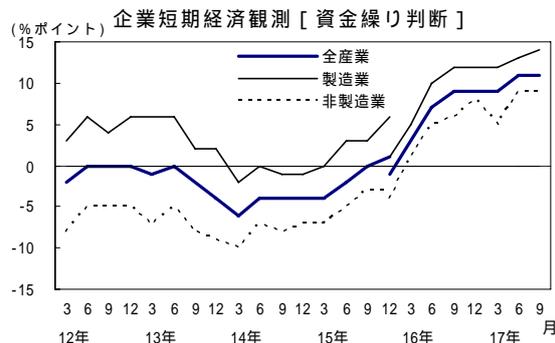
2. 平成17年9月の近畿は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

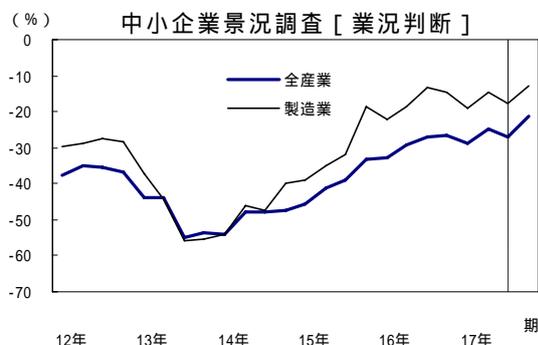
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

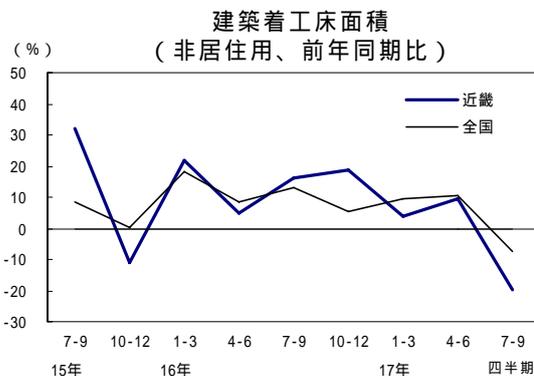
「9月以降は動きが鈍くなっている。ただし、得意先はまだ様子見の状況である一方、一部の先端産業や家電業界の得意先からは順調に受注がある(出版・印刷・同関連産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	2.9	9.6(3.0)
製造業	5.3	14.1(2.3)
非製造業	1.0	5.9(3.6)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

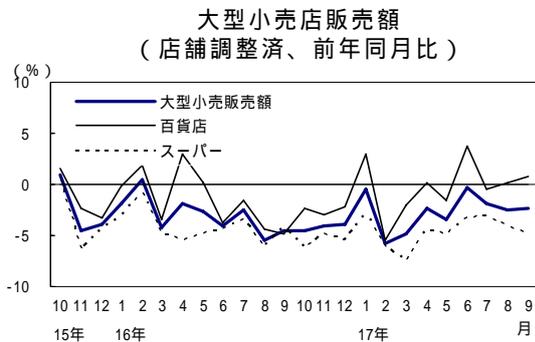
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は一部店舗の売り尽くしセールなどの効果もあり、宝石・貴金属や身の回り品が好調だったことに加え、紳士服・洋品にはクールビズ効果もみられたものの、中元ギフトの早期受注の反動が出た飲食料品、家具・家電・家庭用品などが振るわず、前年を下回った。8月も一部店舗の売り尽くしセールなどの効果により、宝石・貴金属、化粧品、飲食料品、呉服などが好調に推移し、前年を上回った。9月は、一部店舗の新規開店や改装などに加え、在阪プロ野球球団の優勝関連セールが重なり、呉服や婦人・子供服・洋品、飲食料品が好調に推移し、前年を上回った。この結果、2四半期連続で前年を上回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の10月の売上高は、前年同月比で2.4%増となっている。スーパーでは、家庭用品などに動きがあったものの、四半期を通じて主力となる飲食料品が米や野菜の価格低下などの影響により振るわず、全体としては前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「今の季節はAV関連商品が中心になっているが、白物商品も堅調である。単価の動きでは、AV関連商品は大きく低下しているが、白物商品の低下はあまり大きくは感じられない(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

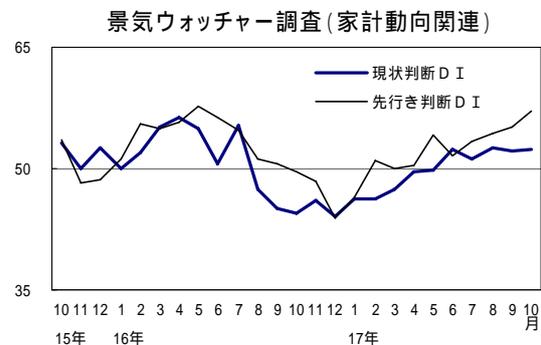
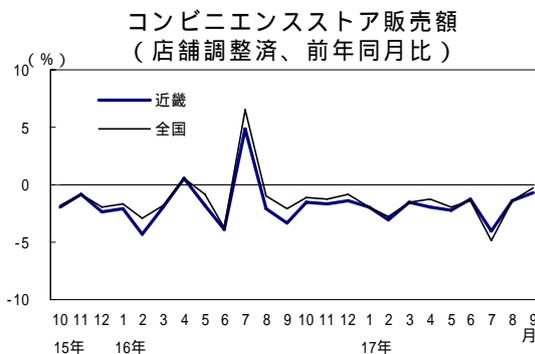
(前年同期比、%)



	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.1	3.6	2.0	2.2
百貨店	2.5	1.3	0.8	0.1
スーパー	5.5	5.4	4.2	4.0
コンビニ	1.5	2.1	1.7	2.1
景気ウォッチャー	44.8	46.7	50.6	52.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

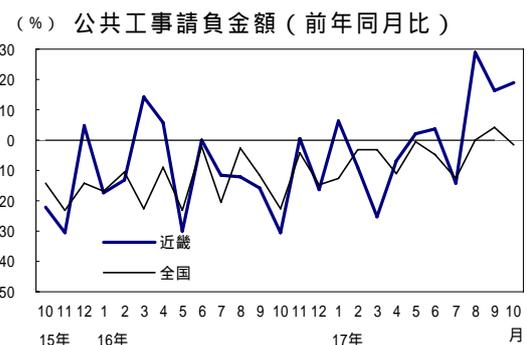
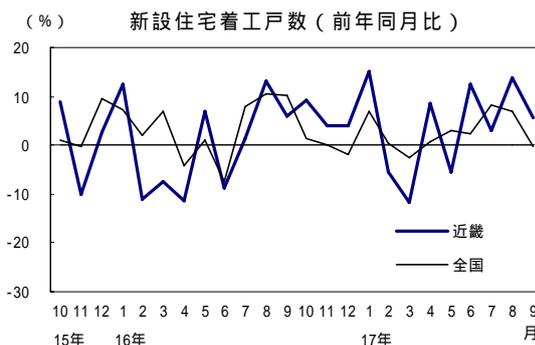
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったが、貸家、分譲及び給与が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を上回っている。

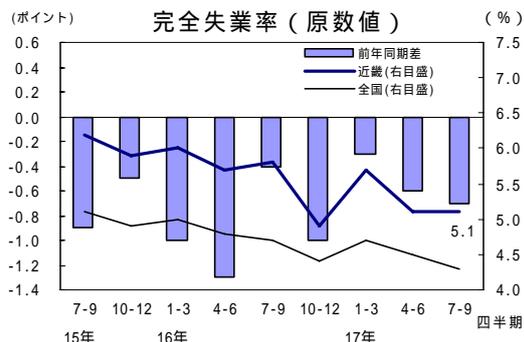


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

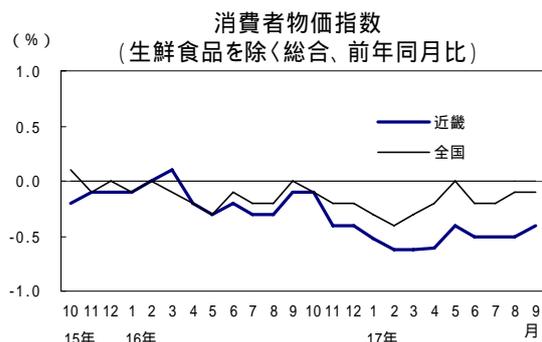
「年末特有の慌ただしさと、10 数年前のパブル期を思わせるような動きがみられる。派遣各社はインターネットなどでかなり費用をかけて人材を募集しているが、ミスマッチが続いている。今後もこの状況が続き、年末に向けてかなり忙しくなる (人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	815	751	802	866	370
(前年比)	9.5	18.7	3.0	3.1	28.9
負債総額	6,128	6,186	4,086	3,598	1,688
(前年比)	3.7	1.9	46.0	5.2	57.9



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・昨年にはなかった在阪球団の優勝セールのほか、月中旬は気温が平年並みで推移したこともあり、売上が前年を上回る日が多くなっている (スーパー)

<先行き>

・11月から来年春にかけては、大型マンションの売出しが重なることから、活発な販売活動で客の動きも活発化する。また、相場上昇感から、新築、中古を問わず市況が活性化する (その他住宅 [情報誌])

景気ウォッチャー調査 (合計)

